

3年前の編集後記（皮膚臨床，59：1936，2017）で，投稿論文によくみられる変換ミスについて書きました。「有意，優位」「海綿，海面」「曝露，暴露」「健診，検診」「斑，班」「菌種，菌腫」「空胞，空砲」「考按，考案」などです。その後，本誌投稿論文を査読するなかで新しい例を集めましたので，論文執筆時の参考にして頂ければと思います。

- ・異型，異形：atypiaの意味では前者を用い，後者は医学論文ではほとんど使いません。ちなみに後者は「いけい」の変換でも出てきますが，通常の読みは「いぎょう」で，医学ではなく文学的な表現です。もちろん意味も全然違います。
- ・異型性，異形成：上の例と紛らわしいのですが，前者は atypism，後者は dysplasia の意味で，どちらも正式な医学用語です。前者は異型・性，後者は異・形成ですね。皮膚科では後者は使うことが少ないので，たまに骨髄異形成症候群と書こうとすると，骨髄異型性症候群と誤変換してしまいやすいようです。ちなみに，異形性という用語はありません。
- ・不整，不正：辺縁不整，不整形など，irregular の意味で前者はよく使われますが，後者は皮膚科ではほとんど使いません。手書きなら間違はずはありませんが，通常の変換では不整より先に不正が出てきますので，注意しないと間違えてしまいます。なお産婦人科用語で不正出血というのがありますが，病的な出血のことを不正な出血と表現するのは少しおかしいように思います。
- ・痂皮，痂痕：なぜか最近の投稿論文によくみるのが痂痕という誤変換です。あまりに頻発するので，ひょっとして痂痕という表記もあるのかと心配になりましたが，皮膚科の教科書はすべて痂皮ですし，どう考えても「かさぶたが疲れる」では意味を成しません。小生の PC でも，かひを変換すると痂皮，痂痕の両方が出てきます。なぜこのような誤った変換がワープロ辞書に入っているのか謎ですが，ぜひご注意ください。
- ・寛解，緩解：この二つはほぼ同じ意味で，どちらを使っても間違いではありません。字義を調べても，寛も緩もゆるやかという意味であり，使い分けは不可能です。医学の世界では従来寛解と書くことが多かったように思うので，私は寛解と書きますが，緩解を好む人がいたとしても，それを否定する根拠は持ち合わせていません。最近のウイルス禍に関連して終息と収束という読みが同じ二つの言葉がよく用いられますが，ある言葉の専門家が，流行がおさまるという意味ではどちらを使っても大きな差はなく，使い分けるのは難しいと書いていました。どちらでもよいのなら気楽なもののですが，この二つには共通の漢字はないので，少し不思議な感じがします。

（相馬良直）

— 顧 問 —

大原國章 大塚藤男

— 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第62巻 第11号 10月号 2020年10月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 2,700 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号，増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
--	---

- ・本誌に掲載する著作物の複製権，翻訳・翻案権，上映権，譲渡権，公衆送信権（送信可能化権を含む），貸与権，二次的著作物への利用に関する原著者の権利は，金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は，そのつど事前に，出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088，FAX：03-5244-5089，E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。